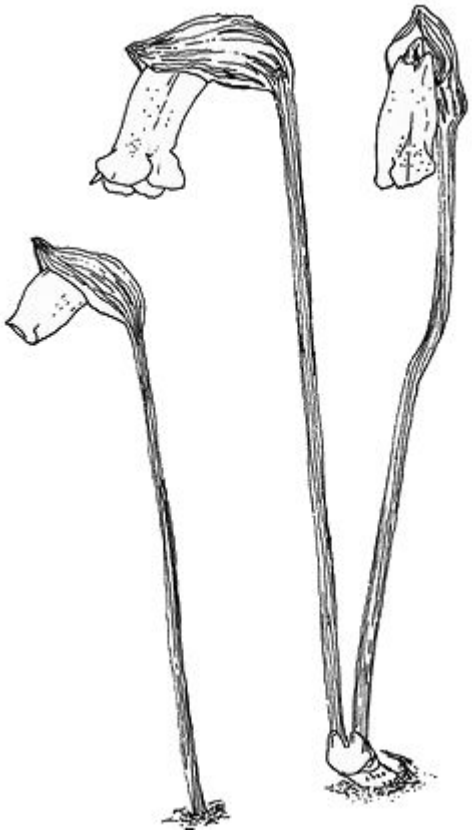
稲城野草散策の会

野草スケッチ　ナンバンギセル（ハマウツボ科）



1996/09/06　　稲城市矢野口　　絵と文　Ｔａ

ナンバンギセルには葉がない。
寄生植物である。
ススキなどの根から養分を貰い、自分では光合成を一切やらない。
ずるいではないか、という人もいるが、人間の倫理観を植物に押し付けても迷惑

会報第３４号　2007年１０月１４日発行　発行責任者　尼子　房夫

だろう。
自然界にはそういうこともあるのだ。
だいいち人間だって、植物に対してそんなに威張れた存在ではない。

生物界を大別すると、生産者、消費者、分解者になるという。
大まかにいえば、それぞれは、植物、動物、菌類（きのこ）とされる。
植物が太陽と土から作り出した養分を動物が食べ、動植物の屍骸や排泄物は菌類が分解して土に戻す、というサイクルである。
人間を含めて、動物は植物に寄生している、ともいえるわけだ。
もちろん例外はたくさんあって、食虫植物のように昆虫を捕らえる植物だって存在する。
ナンバンギセルも、そうした模式図には入りきれない例外の一つ、ということになろうか。

ナンバンギセルは９月に咲く。
そのころに観察会をやると、ススキの根元を熱心に見て歩く人がいる。
ナンバンギセルがお目当てなのだ。
「あったよ～」声があがると、皆、わらわらと集まってくる。
「わ～ほんとだ」「始めて見ました」「立派だね～」・・・いろいろな声が飛び交う。

ナンバンギセルを栽培している人の話を聞いたことがある。
咲いているものを移植しても根付くわけがないので、タネから育てたという。
寄主（寄生される側）には、ススキではなく、もっと背の低いイネ科の草を使う。
これは、鉢とのバランスを考えてのことらしい。
ミョウガでも出るよ、と教えてくれた人もいた。
ミョウガの根元にタネをぱらぱら蒔くだけでよいのだそうだ。

このスケッチは、ありがた山の奥にあったものだ。
ススキの群落があって、そこから少し離れた裸地に生えていた。足場は申し分なかった。
ただ、こういうのっぺりした緩やかな曲線は、意外と難しい。
見ないで描くわけにはいかないし、対象を見ているとペンがあらぬ方向へ行きそうになる。
途中でペンを止めると、そこに小さなダンゴができる。
息も止めていなければならないのだ。

それと、彩色には手間取った。
紫色の花弁は、単色ではない。
ガラスの粉をまぶしたような、きらきらした点が一面にあって、１粒づつ色と濃度が違っているのだ。
そこまでは表現できないと思いつつも、点描の要領で筆先で点点をつけていく手法をとった。
面相筆の先端で、ちょんちょんとコンマ何ミリかの点を打っていく。
それを、すこしずつ色を変えて、何度も何度も重ねて仕上げた。
わずかな面積が、とてつもなく広く感じた。

右側の株は根元が土から露出している。
根の先端がどうなっているのか、掘って確かめたい誘惑にかられた。
だが、被写体の植物にダメージを与えないことを、これまでのスケッチでは守ってきている。
もし掘るのだったら、根まで含めてスケッチしなければ、ナンバンギセルも浮かばれまい。
結局、そのままでその場を離れた。ちょっぴり未練ではあったが。
（彩色済みの画像はＨＰで見られます）

＊　＊　＊　＊　＊　＊

〔観察記録〕９月８日　稲城ふれあいの森

◆観察記録（満井喬）
（１）コウヤボウキ（２）クマシデ（３）カノツメソウ（４）サワフタギ（５）ヤマルリソウ（６）アカショウマ（７）トキリマメ（８）ツルグミ（９）ヤマユリ（１０）ソバ（１１）ダンドボロギク（１２）ベニバナボロギク（１３）チカラシバ（１４）エゴノキ（15）ヤハズソウ（１６）ツルボ（１７）サデクサ（１８）ゴンズイ（１９）タラノキ（２０）クサギ（２１）ワルナスビ（２２）エノキグサ（２３）クワクサ（２４）ハンゲショウ（２５）マルバマンネングサ（２６）ヒメムカシヨモギ（２７）ナツヅタ（２８）オオニシキソウ（２９）コニシキソウ（３０）ヒロハノカワラサイコ（３１）カラスウリ（３２）タカサブロウ（３３）カニクサ（３４）センニンソウ（３５）ニラ（３６）ヒヨドリハナ（３７）ヤマハッカ（３８）ザクロソウ（３９）ミツバウツギ（４０）ノコンギク（４１）アキノタムラソウ（４２）イボタノキ（４３）オオカモメヅル（４４）サルトリイバラ（４５）ヒメキンミズヒキ（４６）アオハダ（４７）ノハラアザミ（４

８）ツリガネニンジン（４９）コバノカモメヅル（５０）アイナエ（５１）ヤノネグサ（５２）オモダカ（５３）コナギ（５４）イボクサ（５５）コブナグサ（５６）タイアザミ（５７）シラヤマギク（５８）チダケサシ（５９）チゴザサ（６０）ママコノシリヌグイ（６１）ヒガンバナ（６２）ウリクサ（６３）キクイモ（６４）アメリカキンゴジカ（６５）ブタナ（６６）ヤマノイモ（６７）ナンテンハギ（６８）ヤクシソウ（６９）エビヅル（７０）ツルドクダミ（７１）マユミ（７２）ヤマハギ（７３）アメリカイヌホオズキ（７４）ヒメムカシヨモギ（７５）オオアレチノギク

これ以外に観察された植物

ソクズ、アキノノゲシ、シラカシ、オオブタクサ、クマノミズキ、サルナシ、キツネノマゴ、ミズキ、タマノカンアオイ、オオバウマノスズクサ、ニワトコ、ホオノキ、オオバギボウシ、カシワバハグマ、オトコエシ、アマドコロ、キバナアキギリ、ハシカグサ、ヤマホトトギス、ホウチャクソウ、イヌトウバナ、ウマノミツバ、サジガンクビソウ、アオミズ、ヒヨドリジョウゴ、ヌスビトハギ、ミズヒキ、メヤブマオ、ジイソブ、シオデ、シロダモ、ホラシノブ、シモバシラ、クヌギ、ハリギリ、イチヤクソウ、コクサギ、イヌザンショウ、ヒメミカンソウ、ニワナナカマド、カゼクサ、アキカラマツ

◆アイナエ（マチン科）

ふれあいの森の近くでアイナエ（マチン科）が見られます。

マチン科とは聞きなれない名前ですが、中国語から来ているのだそうで、「馬銭」と書きます。

日本の野生植物でマチン科はヒメナエとアイナエの２種だけ。

アイナエはレッドデータにはなっていないので、あるところにはあるのだと思いますが、そうやたらに見られるものではありません。

稲城では知っている限り、ここにだけあります。

先日下見を兼ねて８日のコースをざっと回ってきました。

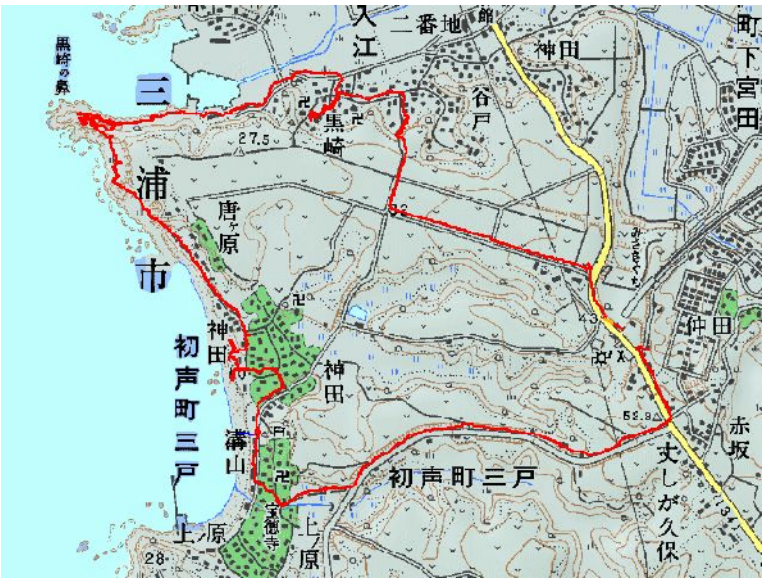
そのときに見たアイナエの写真を貼ります。

５ｃｍにも満たない小さな草です。（Ｔａ）

〔観察記録〕９月３０日　三戸海岸

◆三戸海岸観察地図

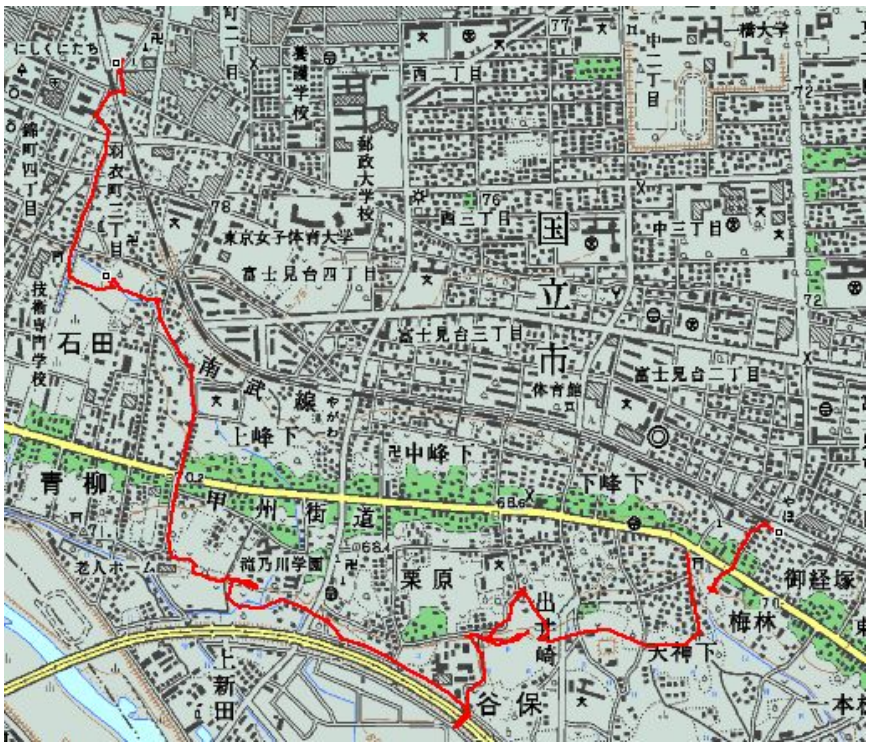
当日歩いた GPS 地図を掲載します。それにしても降り止まぬ雨の中、よく歩きましたね。
よく見れば、ささやかの店へ入っていく軌跡も記録されていました(^_^;)



◆観察記録（満井喬）

カラムシ、ラセイタソウ、シマナガバヤブマオ、イヌビワ、オオイタビ、イタビカズラ、カナムグラ、オオイヌタデ、ミチヤナギ、ケアリタソウ、オカヒジキ、ホウキギ、フジナデシコ、マツバギク、オシロイバナ、ザクロソウ、センニンソウ、アキカラマツ、アオツヅラフジ、ツヅラフジ、ミツバアケビ、フウトウカズラ、オオバノウマノスズクサ、イスノキ、タイトゴメ、トベラ、アメリカデイゴ、ヒロハクサフジ、キツネササゲ、エノキグサ、イワタイゲキ、ハマタイゲキ、ニシキソウ、オオニシキソウ、コニシキソウ、カラスザンショウ、ヒメハギ、ヤマハゼ、ハゼノキ、ツルウメモドキ、マサキ、クロガネモチ、ツタ、ノブドウ、エビヅル、ヤブガラシ、ウキツリボク、マルバグミ、トケイソウ、カラスウリ、キカラスウリ、アマチャヅル、フクシア、ボタンボウフウ、ハマボッス、オオバイボタ、フウセントウワタ、ヘクソカズラ、ハマサオトメカズラ、ソナレムグラ、クチナシ、ローズマリー、アレチハナガサ、ハマゴウ、ヒヨドリジョウゴ、イヌホオズキ、クコ、ヤコウカ、ハマヒルガオ、ナンバンギセル、サンゴジュ、ツリガネニンジン、イソギク、オオオナモミ、センダングサ、コセンダングサ、タカサブロウ、ノゲシ、ハチジョウナ、ネコノシタ、オオブタクサ、ヒヨドリバナ、キクイモ、ワダン、ツワブキ、ペラペラヨメナ、スカシユリ、クサスギカズラ、ツルボ、ハマカンゾウ、ムラサキクンシラン、ヒガンバナ、ハマオモト、セイバンモロコシ、ヒメモロコシ、スズメノヒエ、タチスズメノヒエ、カモノハシ、エノコログサ、ハマエノコロ、ムラサキエノコロ、オオエノコロ、ナギ

〔行事予定〕　2007/10/14（日）　矢川源流

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、ＪＲ南武線・谷保駅 改札口付近　※会旗目標 谷保駅の改札口は一個所だけです
交　通	ＪＲ中央線立川駅からＪＲ南武線で３駅目 京王線分倍河原駅でＪＲ南武線に乗り換え、１駅目
行く先 （解散場所）	ＪＲ谷保駅から青柳崖線～矢川に沿って歩きます。 ＪＲ西国立駅にてｐｍ３時半頃解散予定
見所 その他	矢川源流を探ります ミクリ、シダではコシダ、ウラジロなどが見られると思います
地　図	
コース	ＪＲ南武線・谷保駅→谷保天満宮→城山公園（昼食）→ママ下湧水 →矢川緑地→ＪＲ南武線・西国立駅 （上の地図を参照ください） コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

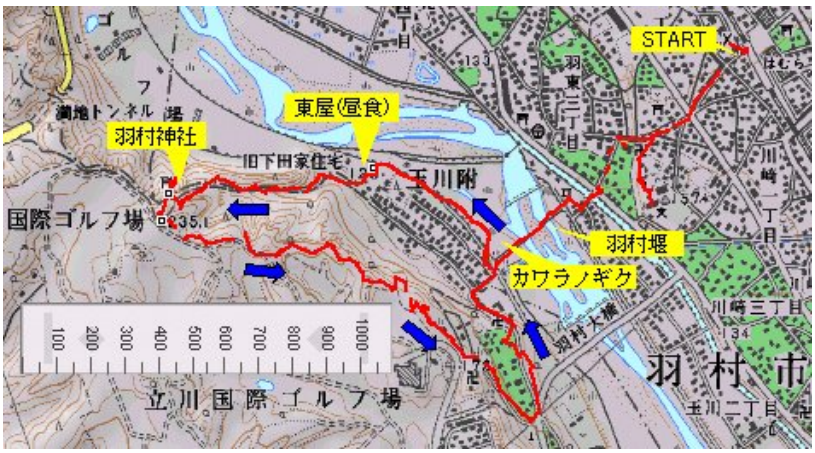
※雨天決行　参加申込み不要、会費当日３００円

〔行事予定〕2007/10/27（土）　秋川・小峰公園

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、ＪＲ五日市線武蔵五日市駅　改札口付近　※会旗目標 ＪＲ五日市線武蔵五日市駅の改札口は一個所だけです
交　通	ＪＲ五日市線の終点です ＪＲ立川駅９：１０→武蔵五日市駅９：４０が便利です
行く先 (解散場所)	ＪＲ五日市線武蔵五日市駅から小峰公園へ 武蔵五日市駅　ｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	深まり行く秋をあきる野の丘陵で思いっきり楽しみましょう。多摩丘陵とは一味違う秋があると思います 野菊のいろいろが見られると思います
地　図	
コース	武蔵五日市駅前～小庄～小和田～広徳寺（昼食）～新多摩変電所裏～小峰公園～留原～中村～武蔵五日市駅（解散）

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円

〔行事予定〕2007/１１/１１（日）　草花丘陵

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、ＪＲ青梅線羽村駅　改札口付近　※会旗目標 羽村駅の改札口は一個所だけです
交　通	ＪＲ青梅線青梅特快　立川発９：３５　羽村着９：５５があります 立川～羽村は、約２０～２５分です
行く先 (解散場所)	草花丘陵(一回りして羽村駅へ戻ります)(下の地図を参照ください) 羽村駅にてｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	羽村市のボランティアが保護しているカワラノギクが見ごろです カワラノギクの分布は多摩川と相模川の一部に限られています 他に、コシオガマ、コウヤボウキ、ヤマゼリ、タイアザミなどの花や各種木の実が見られます
地　図	
コース	羽村駅→羽村堰→河原（カワラノギク保護地）→羽村市郷土博物館（昼食）→羽村神社→ゴルフ場に沿った散策路→羽村大橋→羽村堰→羽村駅（解散：４時頃） 行程４～５ｋｍ程度です 多少のアップダウンがあります コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円